

令和8年度校内研究構想図

【学校教育目標】

○にっこりあいさつ ○はっきりすてきなことば ○やる気いっぱい心ひとつに

【研究主題】

子供の主体性を促す探究学習

～理科・生活科・生活单元～

【児童の実態】

児童アンケート 2027年 3月実施

	令和7年度		令和8年度	
理科は好きか。	肯定的 87.9%	否定的 12.1%		
好きな場面はどこか。	観察・実験 62.2%	問題の見だし 7.7%		
どれくらいできるか。	類題の立案 77.9%	問題の見だし 69.2%		

児童の課題

- 理科の学習と日常生活が結び付いていない。
- 自然事象に興味をもつ児童が少ない。
- 科学的（実証性・再現性・客観性）に解決しよう意識している児童が少ない。

【目指す児童像】

（低学年）試行錯誤しながら、おもしろさや不思議さに気付くことができる児童

（中学年）自然の事物・現象に親しむ中で分からないことを調べたり、自ら行動したりすることができる児童

（高学年）問題解決を通してより妥当な考えをつくりだし、日常生活に生かすことができる児童

（生活单元）遊びや体験をしながら、自分事として活動し、工夫することができる児童

【研究の仮説】

問題解決の過程において、一人一人が自然事象と関わり、グループでの話し合い、全体での共有を繰り返すことで、児童が主体的に学習を進めることができるだろう。既習内容や生活経験を基に自分の考えを表現し、友達の考えと比べることで、より妥当な考えになっていくだろう。

研究主題に迫るための手だて

①探究する力を養う工夫

- ア:問題の見だしや結論の導出を子供主導で行う
- イ:個人やグループでの活動時間の確保することで、自分と友達の考えの違いや見通しをもつこと
- ウ:活動を児童が選べる
- エ:教師が児童に考えさせたい内容や獲得させたい知識技能について、子供の発言を引き出しつなげたり広げたりする

②主体的に問題解決しようとする工夫

- ア:自分の学習活動の振り返り
- イ:既習内容の想起
- ウ:日常生活との関わり
- エ:学習内容の深い理解、新しい問題の見だし

デジタル機器の活用